

1978年5月号

昭和53年5月5日発行(毎月1回5日発行)

No.26

あんふあんて

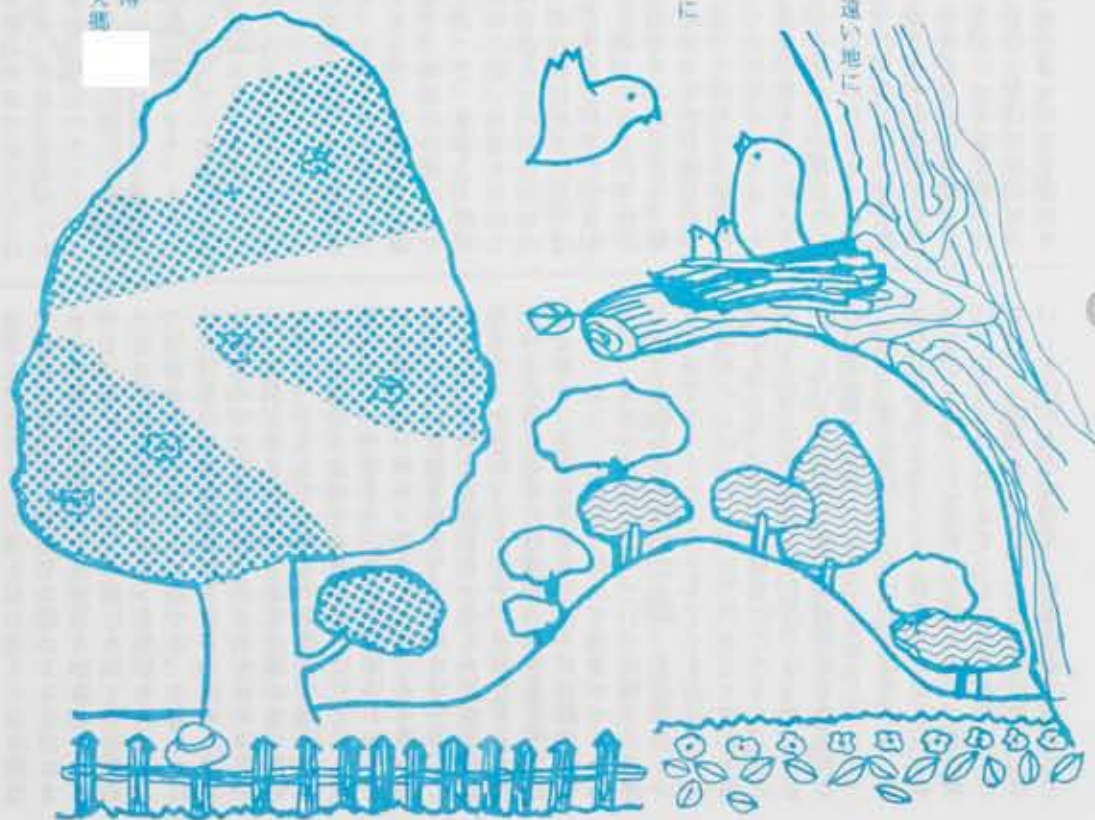
発行人/ 発行所/ あんふあんて出版部
定価/ 100 円 振替口座/ あんふあんての会

『さよなら』をいつ言おう
たまに来てよ……とは言えない遠い地に
行くのだ。

別れを指で数えながら
つき合ってくれた隣人よ、
淋しさの余り揺り起こした花壇に
今年の花が咲き始めているのに
時間と空間に裏切られた
人の別れは とても苦いネ。

『転勤』の呪文で
運命を変える友人よ、
せめて
たんぼぼの縮輪子のように
風に吹かれて落ちた地に
芽の出ぬ根さえ
はってみなけりや
背中いつばいの末種が
しよいされぬだろうネ。

詩 薄
イラスト 矢野



＝子連れ集団アルバイト
始末記＝



あるあんふふんての会で、メンバーの何人がグループになって、お中元の配達という仕事をするようになりました。その際、主婦たちだからという理由で、特別の待遇にしてもらいました。普通と違って、能率よく配れる団地はその周囲の能率の悪い地域も含めて一区画になっているのを彼女らの住む団地内だけに限ってもらい、歩合も初めてにしては破格の条件で認めてもらうことができました。

配達係、子守り係を決め、いざという時の助っ人も頼んで、いざ始めてみたところ、何日かになって子守り係から苦情が出たのです。子どもの預け方になっていない（事前の連絡もなく、朝になって突然預けに来る、それに昼食の準備もして来ない等々。）というわけで、これ以上子どもを預かるのはお断わりということです。彼女の云い分ももっともなのですが、預け方について話し合っても結論を出している間に、配達すべき荷物はどんどん滞積してきますし、彼女が子どもを預ってくれないと、配達係のなかには身動きがとれない人もでてきて、人員の予定は大幅に狂ってしましますから、配達係は気が気ではあり

で、世話役が必死でそれをカバーしている状態だったのですから、その上話し合いをしている時間のブランドが重なれば、もう世話役のカバーの限度を超えてしまいます。ということは、最初に運送会社と交した約束を守れなくなったということです。主婦はどうしても「夫の帰宅までには食事の用意をしておかなくちゃ」とか「子どもを余り長時間預けられないから」とかいう理由で残業ができないこと、家族の具合によっていつ欠勤する必要が生じるかわからないことが、やはり、ビジネス面ではマイナスとなってくるわけで、特に時間にしばられる契約では、たとえ家が火事になろうと、子どもが病気になるうと、とにかくダウンして約束を守れなくなったらおしまいという非情な、非人間的要素も含まれるのが現実です。

結局、運送会社にはらはられながら、世話役が夜遅くなっても頑張って何とか2週間をきりぬけましたが、主婦グループの事情は、ひとつひとつはもっともなものだけれど、それを云い始めるのと仕事の世界では通用しないことばかりなのです。約束は必ず守ること

北九州市

いねゆる、主婦」のいま置かれてゐる現状に満足し得ないでいる私たちは、毎回、熱っぽいデイスカッションを繰り返した。が、それも愚痴をはき合い、問題を提起しただけに終わり、このままでは何かもの足りないという声が多く、結局、これを企画運営した一女性のアクセスを求める会—の人たちの努力で5月からは、市が主催の公民館講座として出発することになった。

料理や洋裁やらの趣味的なものでない、こういう女性講座（もちろん、託児あり）は、北九州では初めての試みだそうだ。

市からは予算が出るだけで、講座の内容、講師、託児などは一切こちらの思うようにや
 っているのだそうだ。前回出席して、今後

参加する者は約25名くらいで、あと公募して50名ぐらいいに増える予定だ。何度かの話し合いの結果、内容は一本の柱として「女性史」を学習することにし、あと分科会に分かれて「主婦の社会参加」とか「老後の問題」とか「主婦と職業」とかをやっていくことになった。

講師役は私たちがかわりばんこに務め、いまのところ、森崎和江さんの講演を予定している。

託児は専任の保母3名と、前回出席の者が5名ずつくらいのパレーションで託児に加わるようになった。同じやるにしても、ただ単に預かるだけでなく、何か子どもが少しでも成長できるような場であるために、いまは共同保育についての資料を探したり、記録を調べたりしているところだ。

私たちあんふあんのメンバーは、私たちに、「アクセスを求める会」におんぶしながらはあるが、もう一度「共同保育」を見つめ直す必要を感じている。

（共同保育とか集団保育についての資料や本などあったらお知らせください。）



その後

—これが、最も重要である世界で仕事をする以上、主婦だからと甘えるわけにはいかないし、甘えてしまえばそれでもう信用もなくなりまゝす。ほんの2週間の仕事でも、協力体制がひとつ狂えばすぐダウンしてしまうのはやはり主婦の弱さなのかもしれません。ところで会社側の感想は……また来年もやってほしい、やる気のない男のアルバイトより熱心な主婦の方がまだ頼もしいから……とのこと。さて、来年はどうしますか？

(菅原)

(菅原)

日帰りの託児室使用については、現在細部にわたり具体的な検討段階に入った模様で今年度中には間違いなく、早ければ今夏にも使用できそうです。私達あんふぁんてが会館との話し合いで要求していた子連れの宿泊については、他の団体、グループからも多数の要望があり、日帰りの託児室の問題がすっかり片づいてからというより、同時進行で考えた方がよいのではないかとの意見も会館側にあります。可能にする方向で文部省と話し合いを始めたそうです。その際、あんふぁんての提出した要望書は具体的に解り易く役立ったと聞いています。

た。子連れ宿泊を全く考えずオールフンされているので、施設、設備、人員、安全性等多くの難問題があり、本年度中は認められそうもありません。この件に關しての懇談会も設定されるようです。

（幾代）

(幾代)

新幹線に ベビーコーナーを！ 署名集め＝続その後



今までに、あんふぁんて以外の女たちのミニコミやグループに、35ヶ所協力をお願いしました。そのうち署名返送とか励ましの手紙、取材、掲載してくださったのは「ばく」・「女・エロス」・「ひらひら」・「あごら」・「国際婦人年をきっかけにして行動を起こす女たちの会」・「全国婦人新聞」・「地域・家族」・「婦人民主新聞」・「わいふ」・「ウーマンズ・ハウス」・「れ・ふぁむ」・「序声」・「無名通信」・「国際婦人年あいちの会」・子育てを考えるグループ「ぐるーぷ・クレイオ」などです。これをきっかけに、いろんなグループとも情報交換などをすすめていこうと思います。

★この署名運動の参考になるかもしれないというこで岡山の会員さんから新聞の切りぬきを送られてきました。内容は岡山県で母乳運動を進めている山内逸郎国立岡山病院小児医療センター院長と岡山県愛育委員会が列車や、デパートなどに授乳コーナーを要求するというものです。母乳の栄養的な面よりも母親の愛情表現としての母乳育児の推進を言っているの、私達がベビーコーナー

を！と言うのとややおもむきを異にするとは思いますが、面白いのは、この岡山での動きが進展して、3月23日の国会の運輸委員会で横山ノック（議員名山田真）氏の「おっぱい列車」の発言になっていることです。とても長いので要約しますと――

★横山ノック氏――長距離列車、新幹線に「おっぱい列車」を設置することは、母乳育児推進に大いに役立ち、母乳をやることは、栄養面からも、スキンシップによる愛情をつちかう面からも大変いいことなので、ぜひそういった室を、考えていただきたい。

★福永運輸大臣――そういった意見はおもしろく関心を持つべき着想だ。この種のことを言い出すのは勇気も要することであり（どうして？）、ぜひ研究させていただきたい。

★横山ノック氏――車掌室を一時的にも使用許可されたんですが、乗客も気がねをしてしまいます。新幹線の車いすルームがかなり広いスペースでつくっていただけてますので、とりあえず、そこに2人くらいかけるようないすか何かを設置してもらえないでしょうか。★吉武国鉄常務理事――身障者専用の個室も現在、99編成中50編成までできておりまして、ここ1・2年には8・9割ぐらいになるだろうというこで、又、16両中1カ所ではどうかというこでもあります。そういう際には、車掌にお申し出になって、適宜ほかの部屋を使ってください。昭和60年ぐらいには、今の7号車の専用室というものが全部完備され、その過程でわれわれも考えて行きたい。

★横山ノック氏――これはもう全車種なんというこは無理でございますので、10本に1

横浜市

その場所は署名運動をするのには、ひどくのんびりした人々があちこちで日なたぼっこをしている緑多い公園でした。新宿の歩行者天国で行なうと聞いていたので、日曜日の雑踏の中で人にもまれ、声をからし、人混みに姿の見えなくなった我が子の名を呼びつづけ……なんて勝手なイメージを作りあげ、幾分気分がよくなった私には拍子抜けするようなのどかさでした。

学生時代に経験した街頭カンパやビラまきなどの記憶から、そういうイメージを持ってしまったのですが、ベンチで楽しそうに語らうアベック、芝生の上で弁当をひろげる家族連れ、ブラブラ散歩する若い夫婦連を相手に自分も又、5月の快い風を吸いこみながら散歩がてらにやるのも悪くないなあ、と思い直しました。

大人も子どもも「あんふぁんて」と書かれたピンクの名札を胸につけ、首から署名板をぶら下げた恰好に、最初は怪訝そうな顔をしながら相手も趣旨をくれた調子で説明すると、「へえー」とか「あらっ、いい事ネー」とか「新聞で読んだわ」とか云って、ほとんどが好意的に署名してくれました。若い女の子や中学生ぐらいの女の子には「あなた達も多分母親になるんだから」と云うと、テレビのように、名前を書いてくれました。男女2人連れは男の方が反応があり、質問したりしてくるが、女の方は男がしたから仕方ないという風な人が多く、亭主まかせ、男まかせという世の男女の在り方がちよびりみえておもしろく思いました。

新宿区

5月5日の署名運動の時「新幹線にベビーコーナー？何それ？何でそんなことしなきゃならないの？」とけげんな顔をされて言われた。又、ベビーコーナーなんて特別につくらないで、たって周囲の人の善意を期待すればいいではないかという人もあったけど、それは楽観的な意見だと思ふ。でも、大方の人間がピンと来ないのも無理はない。私だって子どもがいなかったら「どうして？」って思う。

子どもを生んでから（妊娠中も含めて）、又働き始めてから、世の中のいろいろな都合な部分が見えてきた。動こうと思っても手をひっぱるもの足をひっぱるものが多すぎる。けれど、子ども連れで区役所・福祉事務所・郵便局・職業安定所などに出かけなくてはならない時などとても疲れる。子どもはおなか

が空けば泣くし、おむつも取り換えてはならぬわず泣くし、おむつも取り換えてはならぬわず泣くし。肩にショルダーバック、もう片っぱには7ヶ月の子をだっこして、ヤッコラショと歩いていくと、それはもう腕が痛い足の裏は痛い息切れ状態なんです。それで不平不満を言わないで、がまんするのが当たり前だとか美徳だとか言われるとムム、ムム、育児は本来楽しい仕事なのに、母親ひとりの手に任せられているため、お母さんはくたびれていて、どうかひとつ、ひとりであわてふためいているお母さんがいたら、助けてあげて下さい。



横浜市

かねてから妹からあんふぁんての主旨を聞いて賛同はしていたものの、傍観者であった。署名運動に一日会員として参加する事で、自分の後めたさを補うつもりであった。

ベビーコーナーに対して男と女がどんな反応を示すか興味津々で爽やかな公園を回り始めた。若い男の子は逃げるかなと思つたが、驚いた事に積極的に記し応援付け加えてくれる。カッパルに求めてみると恥ずかしそうに顔を見回せながらも「いい事ですね。」に我にもこの人達の様な時代があったのだという懐かしさが浮かんできたりで重点的にカッパルに、「これからよ。」という説教調で続けた。1組、美しく化粧したカッパルに当たって見たが、男の方が後を振り向きつつ詫言っていたにも拘わらずツンと足早に立ち去ってしまった。いわゆる適齢期で末は子持ちになるかもしれないぬののいいかな。

突然、我が愚かな息子が弟の怪我を知らせに血相を変え飛んで来た。愚かな母はハンパーガーを投げ飛ばし駆けつける。彼は石畳の階段に滑り落ちて泣いていた。起こしてみると眉の処を角にぶつけたらしく、血が滲み出る間にも腫れてきたが大した事は無い。傷の方が軽かったため又々ハンパーガーをむしり取り出したが、回りの長閑なる家族連れの賑いを見ている内に背筋が寒くなって来た。

他人に対する無関心。多数の人がいながら誰一人起してくれなかったという現実。署名運動に関心を示さなかったあの若い女性に何処かでつながっているのではないか。



★5月5日、新宿の西口公園で、署名集めをしました。歩行者天国までは、少し距離があったので、そのまま公園でやりました。公園内は、親子連れも多く、みなさん協力的で意外にスムーズに署名が集まりました。こういった街頭での署名集めは、もっとグループでやってもうまくいくんじゃないかと思ひます。ぜひやってみて下さい。案外面白いものです。★後のページは、その日署名集めに参加した人達の感想です。

（神田）

練馬区

理由は、

なあと思ったりします。

く、がんばろうと思っています。

杉並区

い

のでしょうか。

千葉市

運輸委員会での質問部分コピーしました。

印刷にすると、まずいというのが、今の官庁

杉並区

葉です。

親が働いているせいにされてはかありません。

私た

いるのか、チェックできるわけです。

は言っていました。

めに――。



宝塚市

女性たちが問題にして

る姿を表現した、という。

成され会員は約百人になるという。

絶対認めない構えの女性たち。がんばって。

とになります。

などでまとまれば、回収も



情報コーナー

★「でいんだんどん」より

幼稚園を拒否した子持ちの女が集まって、田無に一軒家を借りた。約1年半程前のことである。現在、年齢層の違う子ども達と大人が朝から夕方まで生活している。

子どもとの関わり合いと、親同士の信頼関係をたいせつにするために、原則的に、保育は親の持ち回りとし、専従はおかない。家賃及び経費は均等割りにしてまかなっている。親は1週間のうち3日、当番として働き、2日、各自の自立を目指して、それぞれに動き回っている。会員の入れ替わりや、個人の事情により、その都度ローテーションはやりくりしてやってきた。経済的にもきびしく、保育に關しても悩むことは多い。

親以外の大人として定期的に参加している人が3人いる。女2人、男1人。自分なりの方法で子供らと接し、大人同士も語り合っている。絵を書いたり、すもうをしたり、あっちでワイワイ、こっちでガヤガヤという様子である。……こんな時、自然な人間関係の広がりを感じる。そして未熟な若い私たちが、次々に抱える難問を解決するためにも、内にとじこもることなく、小さな子どもから、お年よりまで多くの人々と交流し、その中から自らの生き方や育児観を模索してゆきたいと思っています。子持ち女はもちろん、より自然な人間関係を求める人、参加しませんか。

ニコミ 紹介

人働きつづけるためにVJ共働きと子ども
国際婦人年2年目の1976年、大阪市北
区で働いているメンバーが昨年の婦人問題議
座にひきつづき、今年は働きつづける上での
最大の悩み、子どもの問題について話し合っ
てできたパンフレットです。パンフレットと
いっても手のひらに収まる位のかわいい小冊
子です。

内容は、1 共働きをめぐる 2 働きつづける条件づくり 3 保育所をめぐる問題 4 小・中学生の子どもと学校教育 5 小・中学生の子どもと家庭教育 6 共働き論をつくらうです。そして付録として、①お姑さんとのつき合い方 ②平田順子さんのこと ③健康メモ ④お料理メモ ⑤保育所に入るには ⑥共働きに役立つ団体 ⑦共働きに役立つ本 ⑧国内行動計画（要旨） ⑨共働きのパラードがのっています。

どの項目の話も討論内容をまとめたもので、具体的な例がのっているの、とても分りやすいと思います。今働いている人だけでなくこれから働きたいと思っている人にも是非、読んでほしいと思います。

100円

発行 国際婦人年北区の会
松町3の8第3青山ビル 弁護士川西方



★働くための共同保育所を作りませんか？
子どもがいて働きたい方、また、既成の保育所に納得できない方はお電話をください。
当方は4歳の男児ひとりです。

★音楽を楽しみたい人へ：

私はいまエレクトーンの指導者として働いています。子どもたちとも大人とも遊んだり踊ったり芝居しながら音を楽しめる。そういう空間をつくっていきたいと思います。音をきっかけに生活をも楽しみたい人、連絡ください。

★10月出産予定。夏から秋にかけてのミニでないマタニティ希望

★私の誕生パーティへ、ぜひいらして下さい
40歳の誕生パーティを恥しげもなく催すことにしました。サンドウィッチと飲み物位の簡素なものです。子どもたちや男性軍も歓迎です。6月23日(金曜日)午後1時〜4時。
場所はジョラ(東西線早稲田駅神楽坂寄り)エスプラント会館(TEL 20306022)
申込みは6月18日迄に電話にてお願いします。

二代

幾代

図書コーナー

▲誕生の詩V トーマス・ベルイマン 偕成社刊
生まれたばかりの赤ちゃんは似たりよつたり、という今までの感想を見事に打破つてしまふ写真集です。同時に本気で赤ちゃんと対面していった自分にも気づきます。

生まれた瞬間から2、3秒、5秒、20秒、一瞬毎に赤ちゃんの喜びや悲しみ、意志や意識を感じます。そこには誰のものでもない、赤ちゃんひとりひとりの人格があります。

「かわいい」というだけには終わらない、それを越えた写真なのですが、冷たいカメラやレンズを感じさせず、新しき仲間たちをやわらかくつつみ、対等の人格として冷静に視つめているのが、とても気に入りました。作家はスウェーデンの新進男性カメラマン。Aのびやかな女たち▽松本路子 話の特集刊

「今、女たちはいきいきと」「私が出会ったいい女」「海のむこう側で」の3部で、新聞、雑誌、個展、海外取材と活躍中のカメラマン松本さんが8年間撮り続けた女たちの貴重なドキュメント。既成の「女らしさ」ととらわれない、新しい、のびやかな女たちの溢れ、飛び出してくる写真集です。

松本さんのレンズを通して生まれ変わる、といったようなマジックなんかじゃない、女の未来の可能性を、とてもしっかり考えている松本さんの視線に勇気づけられる。今後とも注目していきたい仲間だ。

▲ばくニュースV Ⅱ 版6からⅡ
札幌市で共同保育所をやっている「保育園
ばく」のミニコミです。

ひとりの男性の文章から、3年前スタートしてからの軌道がみえてくる。「最初乳児3人で始まった。保育園をやるうとかでなく、面倒みあおうか、閉じこもった空間で子供にかかりつきりになり疲れてイライラするのはよくない、自分たちの時間もつくった方がいい、おとなと子ども・子どもと子ども・おとなとおとなのいろんなつき合いができそう、かえって子供が何人かいた方が楽ではないかそんな所ですつと入っていった。」という始まりは、とても「あんふぁんて」にも近いではありませんか。しかし、東京にいる者にとってはうらやましいほどの自然に恵まれていて、タメ息が出そう。途中いろいろあって、子供のベースを通して見てゆける人「専従」を置き、保育園化へと変わり、子ども12名、関わるおとな20名をこすくらしいになる。専従とローテーションという形の中で、専従には給料が払われたが、給料に対するイメージがそれぞれ異なり、後に議論がおきてくる。専従とは仕事なのか、暮らしなのか。誰が誰に何に対して払うものなのか。専従とは「ばく」の中の「専業主婦」ではないか。無給の子育て専従者ともいえるような「母親」とダブっている問題も多く無関心ではいられない。「共同性への思いをそのあこがれの中でとぎすまずより、今皆の中でできること・イメージできるところで確かな歩みにしたい。」

夫は午前さま、妻はこどもとふたり、壁の中に閉じこめられている——なんていうところから仲間づくりを通じてと試みているのがあんふぁんてなら、わいふは誌面を通じての脱け出す足がかりです。

子持ち女といへば、20代から30代、ほぼ似た者同士の寄り集まり。気も合うし、話も合うでしょうけれど、もう少し、連帯の枠を拡げてみませんか？ いろんなところに、いろんな女たちが主婦として暮らしています。

「わいふ」は年齢も、境遇もこえて、主婦であり、母親である女たちが本音を出し合い疑問をぶつけ合うために生まれた、主婦のための投稿誌なんです。

柔かい心で書く随筆欄。火を噴く論戦欄
わいふ・ティーチン。この欄ではいま、分
ったようで分らない「主婦」の正体をつきと
めようと、甲論乙駁のまっさい中。

一度主婦になった女が、外へ出るときの手
がかり、「手探りの自立」欄では、どんな職
業か、どんな技能が、女たちに本来に開かれ
たものか、くわしい収入や労働の形態をふく
めて、丹念に追跡しています。

投稿はどれも必ず掲載します。もちろん読むだけでもかまいません。編集は3人の主婦の手づくりで、54頁、隔月刊で、350円。ぜひ1度、手にしてみて下さいませんか？



事務局から

●連絡先不明だった市原グループのさんは「」

●前号情報コーナー掲載の「」です。

●24号のあんふぁんてレポート掲載の準備出版協会の連絡先は「」

です。関心のある方は、直接連絡してみてもいいです。

●各グループへ。4・5頁にもあるように、署名集めを何人かまとまっています。いろんな所でやってみることに、下の段にあるように、グループ編集のページの件、相談検討してみてもいい。連絡先役の方に同封した往復ハガキにて返事をおねがいします。

●振込用紙の裏面に近況など一言でも書いてあると、とてもうれしいものです。料金を払うのですから、裏面も有効に使いましょう。

★入会申し込みは切手300円分同封し、住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。宛先は表紙上段に記載。

★参加費は1ヶ月300円、なるべく6ヶ月以上まとめて郵便局で。払込先は表紙に。

編集部から

●かねてからの「グループ編集のページ」の企画、是非やってみようということになりました。1番のりは、久我山・鳥山グループです。2ヶ月ぐらいうちの準備ということで、8月号に登場の予定。乞う、御期待！他のグループも、是非検討してみてもいい。北から南からどこからだって、どんな少人数だって、どんなテーマ、やり方だっていいんです。一応、4頁、1頁は3段、1段は20字詰めで33行。これは、タイトルや小見出し、イラストなどは、個別に連絡しますので、まずやるかどうか、いつ頃かを相談してみてもいい。

●署名集めの一環で私たちのグループやミニコミに連絡をとり始めました。いろんな形で順次紹介していきたいと思っています。

●離婚を考えるグループや保育園申請についてや主婦が働くことなど、いろんな感想や反応があるだろう、あつたはずだと思うのです。黙っていないで、声に出して下さいな。

●スタッフだった薄さんは北海道札幌に転勤のため引越しました。ヤル気充分だった彼女、遠方からでも、ビッパッパとエネルギーを補給してくれるでしょう。

●誌面の構成などが、カチッと一定ではなく、あれこれ変わることにとまどいや抵抗があるかもしれないが、スタッフも1つのグループとして、あれこれ、あんふぁんて「」している所です。御意見をお寄せ下さい。

スケジュールメモ

▼6月2日(金)～6月7日(水) 10時～8時半
べべ8階イベントフロア(西武新宿ビル)
松本路子写真展「のびやかな女たち」

▼6月4日(日) 9時半～4時半
市川市市民会館(京成八幡駅、総武線本八幡駅5分、八幡神社境内)
たんぽぽ保育園バザー

★6月10日(土) 1時(東横線大倉山駅待合せ)

共同保育連絡会
6月11日(日) 1時(阿佐谷駅北口待合せ)
阿佐谷保育園
保育問題研究グループ会合

★6月18日(日) 1時～4時半
神宮前区民会館(原宿駅前地図参照)
交流会

▼6月24日(土) 10時半～4時半 300円
日本教育会館(東西線竹橋駅)
合成洗剤毒放毒日本集会(託児あり)
問い合わせ先 婦人民主クラブ(TEL 03-4402-3244)

